

二級河川梅田川多自然川づくり検討会議（第2回）

主な内容

二級河川梅田川の多自然川づくりにおいて、第1回検討会議で設定した『川づくり目標』を基に検討した**河道計画の方向性・ポイント**及び**計画イメージ図（河道断面・平面配置計画）**を提示し、意見交換を行った。

会議概要

■日時 令和3年1月6日(水) 14時～16時30分

■場所 愛知県自治センター

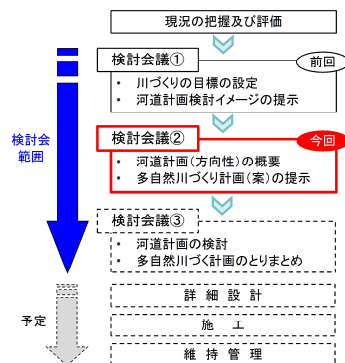
■構成メンバー（*事務局）

有識者、豊橋市河川課、愛知県（河川課、東三河建設事務所）

有識者

氏名・所属	分野
吉村 伸一氏（吉村伸一流域計画室 代表）	河川
長谷川 明子氏（ビオトープ・ネットワーク中部 会長）	環境
林田 寿文氏（土木研究所自然共生研究センター 主任研究員）	河川
坂本 貴啓氏（土木研究所自然共生研究センター 専門研究員）	地域連携

多自然川づくり検討の進め方

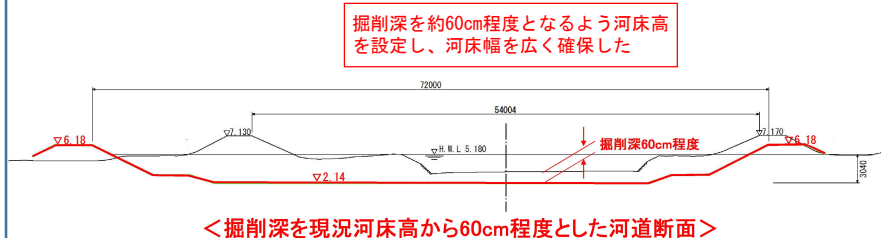


河道検討の方向性

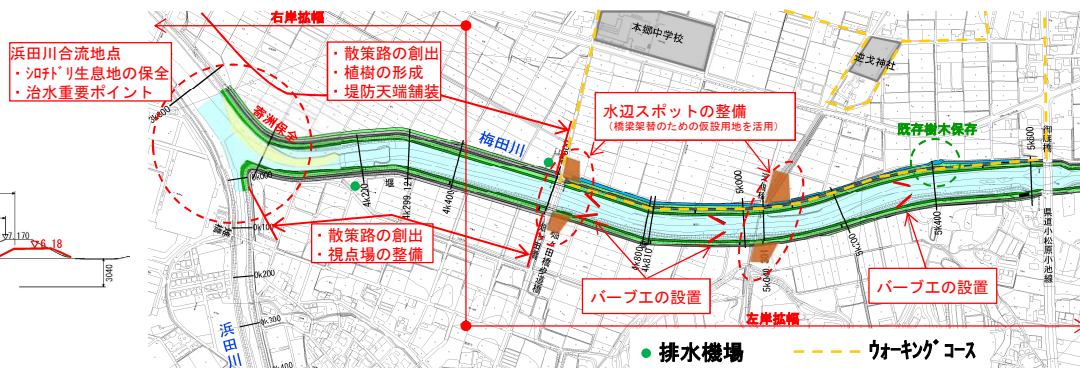
自然環境	河川利用	背景
<ul style="list-style-type: none"> 瀬や淵が見られない 水際に多様性がない 落差のため生物の往来に支障 	<ul style="list-style-type: none"> 堤防が草の繁茂で歩けない 回避性がない 川に近づけない 	<ul style="list-style-type: none"> 単調な景観 河道にアクセントがない
<ul style="list-style-type: none"> 河床幅を広く確保 寄せ土、寄せ石の設置 パープエの設置 排水落差の緩和 	<ul style="list-style-type: none"> 堤防天端の舗装 散策路の創出 水辺スポットの整備 	<ul style="list-style-type: none"> 植樹、視点・休憩場の整備 魅力的な景観の創出

整備方針

① 河道断面の検討 (5.2k)



② 平面配置計画イメージ (4.2k~5.6k)



検討会議状況



有識者との主な意見交換

- 単純に川幅を広げると、全面的に草が茂りやすくなるため、パープエなどの設置により、滞筋を形成するなどの工夫が必要である。
- 堤防上を安全に散策できるように、むやみに車を通さないことも考えるべきである。
- 東日本台風(台風19号)の被害報告(国交省)では、決壊地点の約3割が支川合流部であることから、浜田川合流部分を側帯で堤防強化を図る必要があるのではないか。併せて、合流部から下流野依橋を望む景観は非常に良いため、散策ができるようになれば、良い場所になる。
- 浜田川合流点は、シロチドリの保全も目標に挙がっているため、今後、整備を行う場合、砂洲に影響しないような施工方法や繁殖時期など施工の時期にも注意する必要がある。また、整備後、人が集まるようなスポットになった場合に、シロチドリとの両立に懸念があるため、慎重に検討する必要がある。